



Nuendo 5 で MXF メディアを使う



NUENDO 5

Advanced Post, Live and Audio Production System



Nuendo で MXF メディアを使う

Nuendo 5 は MXF (Material eXchange Format) コンテナフォーマット内のオーディオファイルに対応しています。これはノンリニアビデオ編集システムからのプロジェクトデータが AAF (Advanced Authoring Format) 形式で、その AAF ファイルが MXF オーディオを参照している場合に役立ちます。

Nuendo プロジェクト内の MXF メディアについて：一般的なポイント

- Nuendo は OP1a 形式 (読み込みのみ) と OP-ATOM 形式の MXF コンテナファイルに対応しています。
- MXF メディアは Nuendo 内で自動的に変換されません。オーディオを WAV 形式や AIFF 形式に変換するには、読み込んだ MXF ファイルをプール内で選択したうえで、「メディア (Media)」メニューの「ファイルの変換 ... (Convert Files...)」を利用してください。

AAF プロジェクトに属する MXF ファイル

最近のノンリニア編集システムで作成される AAF プロジェクトは、WAV や AIFF ではなく MXF ファイルを参照するのが一般的です。

AAF プロジェクトからの MXF メディアを Nuendo に読み込むには、以下の方法があります。

- 「ファイル (File)」メニューの「読み込み (Import)」サブメニューから「AAF...」を選択する。
Nuendo 5 は AAF ファイルを読み込み、その AAF プロジェクト内の MXF メディアをオーディオイベントとして Nuendo プロジェクトに加えます。これは他のオーディオファイルの場合と同じです。
 - プール内で「読み込み (Import)」ボタンをクリックし、AAF ファイルに関係なく MXF メディア (クリップ) を個別に読み込む。
- ⇒ MXF メディア内にあるマルチチャンネルのオーディオを Nuendo に読み込むと、1 つのマルチチャンネルトラックが作成されます。チャンネルごとのトラック分けは行なわれません。

マルチトラックコンテナとしての MXF ファイル

MXF は、特に放送用のワークフローで、ビデオを含めたマルチトラックのプロジェクトを管理するのに利用されます。Nuendo 5 では、こうした MXF メディアを読み込むのに 2 つの方法があります。

- 「ファイル (File)」メニューの「読み込み (Import)」から「MXF...」を選択し、新規プロジェクトとして読み込む
MXF ファイルに含まれているオーディオトラックは、それぞれ個別の新しいオーディオトラックに配置されます。その際、MXF ファイル内のビデオトラックは無視されます。

⇒ MXF ファイル内にあるオーディオデータが D-10 などのインターリーブ形式である場合、そのデータは個別のオーディオトラックに分割されません。その場合、MXF から読み込んだオーディオを個別のモノラルファイルに分割するには「プロジェクト (Project)」メニューの「トラックの変換 (Convert Tracks)」から「マルチチャンネルをモノラルに ... (Multi-Channel to Mono...)」を選択します。ダイアログが表示されるので、各項目を希望に応じて設定したうえで [OK] をクリックしてください。

- プール経由またはドラッグアンドドロップでオーディオファイルとして読み込む
この場合、MXF ファイルから読み込んだコンテンツは 1 つのオーディオクリップとして参照されます。MXF メディア内にあるマルチチャンネルのオーディオデータはチャンネルごとに異なるトラックには分割されません。このため、マルチチャンネルのオーディオには Nuendo のマルチチャンネルトラックを使用します。

MXF メディアをプロジェクトとして読み込む場合の注意点

Nuendo プロジェクトは相対的なパスを使って MXF ファイル内のメディアファイルを参照します。このため、Nuendo プロジェクトファイル (拡張子 ".npr") と MXF ファイルの位置関係が変わらないように注意してください。相対的な位置が変わると、Nuendo は該当する MXF メディアファイルを利用できなくなります。

Nuendo プロジェクトで MXF ファイル内から参照されているメディアを利用すると、Nuendo では以下に挙げるファイルベースの操作が適切に機能しません。

- ファイルを保管用に整理 (Prepare Archive)
 - プロジェクトのバックアップ (Back up Project)
 - 書き出し (Export) : OMF および AAF
 - ネットワーク機能を使ったトラックのアップロード
- ⇒ 上記の機能を使用する場合、または該当するメディアファイルをプロジェクトフォルダーに収める必要がある場合には、「メディア (Media)」メニューの「ファイルの変換 ... (Convert Files...)」を使って MXF ファイルを WAV 形式に変換してください。

録音ファイル形式としての MXF

録音したコンテンツを最終的には AAF ファイルにする場合、録音ファイルの形式を MXF に設定することをおすすめします。MXF にすると、ファイルを改めて変換する必要がなくなります。

1. 「プロジェクト (Project)」メニューから「プロジェクト設定 (Project Setup)」ダイアログを開き、「録音ファイル形式 (Record File Type)」欄のポップアップメニューから「MXF ファイル」を選択してください。

これによって、ひとつひとつのオーディオクリップが MXF ファイル (OP-ATOM 形式) になります。

2. 録音を行ない、すべてのオーディオを必要に応じて編集します。
3. 「ファイル (File)」メニューの「書き出し (Export)」サブメニューから「AAF...」を選択します。

表示された「書き出しオプション (Export Options)」ダイアログでは「オプション (Options)」セクションにある「ファイル参照情報のみ (Export Media File References)」を選択するよう注意してください。AAF ファイル書き出しの詳細についてはオペレーションマニュアルの「ファイルの扱い方」の章を参照してください。

書き出し用のオーディオファイル形式としての MXF

オーディオミックスダウンを MXF (OP-ATOM) 形式で書き出すこともできます。

- 書き出しを行なうには、「オーディオミックスダウン書き出し (Export Audio Mixdown)」ダイアログで「ファイル形式 (File Format)」欄のポップアップメニューから「MXF ファイル」を選択してください。
- オーディオミックスダウンの書き出しの詳細については、オペレーションマニュアルの「オーディオミックスダウンのファイル書き出し」の章を参照してください。